



文責 岩根小校長 佐藤勇人

### 「ありがとう」の気持ち

このところ、例年になく寒い日が続いています。お正月が暖かったので、よけい寒さが身にしみます。

現在、学校では、児童会生活委員会が中心になって、朝のあいさつ運動&ユニセフ募金を行っています。また、朝の寒さに負けないで班長さんを先頭に元気に登校してくる子どもたちの笑顔に元氣をもらっています。

休み時間には、校庭では雪遊び、体育館では縄跳び運動、上学年は鼓笛や合奏の練習等、様々なことに積極的にチャレンジしている姿が多く見られます。子どもたちは、様々なことに挑戦し、新たな技能を習得するのが、うれしくてたまらないようです。「できる」ことは自信につながります。難しい技に挑戦しながら、どんどんたくましくなっています。

厳しい寒さの中で、一見枯れ木のように見える木々もその外見の裏側では、芽吹く準備を着々と進めています。冬の間に蓄えた養分があるからこそ、春の訪れとともに美しい花を咲かせることができます。

もうすぐ立春です。あと2ヶ月で進級・進学を迎えます。3学期のこの時期、子どもたちには、自分のめあてをもう一度心に刻み、日々の努力を積み重ねて、春に備えてほしいと願っています。どうぞ、家庭や地域でも子どもたちに励ましのお声かけをお願いします。さて、1月24日から30日の一週間



1月24日の給食メニュー「上尾市の郷土料理献立」

間は全国学校給食週間です。学校給食の始まりは、明治22年、山形県の私立忠愛小学校で出された「おにぎり・塩鮭・菜の漬け物」だそうです。本格的な学校給食は、戦後になってからです。昭和22年、食糧難にあえぐ日本にユニセフから脱脂粉乳が提供され、翌年にはアメリカからも大量の小麦粉が提供されました。当時の給食は、アルマイト製の食器で、パンを主食にし、鯨肉の竜田揚げや千切りキャベツなどを副食としたものでした。学校給食への理解の深まりや保護者から

の絶大な支持を得て、昭和29年に「学校給食法」が制定され、完全給食の素地が整い、急速な広がりをみましました。



1月25日の給食メニュー「福島県の郷土料理献立」



楽しく食べる子どもたちの様子（1年生）です！

本校の給食を提供している本宮方面学校給食センターでは、日々の給食の提供だけでなく、食育の指導も積極的に行ってくださっています。さらに、学校給食週間には、毎年様々な工夫を凝らしたメニューを出していただいています。学校給食週間では、食を樂しむだけではなく、改めて食について考える機会にしたいと思っています。

一つ一つの実践を積み重ねながら、生涯にわたる自分の健康を自分でつくれる子どもになってほしいと願っています。

### ユメセン（夢先生）の授業が行われました

1月18日（水）に5学年で今年度の「ユメセン（夢先生）の授業」が行われました。

来てくださったのは、シドニーオリンピックで銀メダルを獲得したレスリング元日本代表選手の永田克彦さんです。（他にもJFAの方々もいらっしやいました。）

前半は夢先生と一緒に体を動かしました。（仲間と協力した鬼ごっこやボール運びなど）



子ども達は課題を解決する中で仲間の大切さに気づいていきました。後半は教室で夢について熱く語っていただきました。永田さんは、これまで、小学生の頃に抱いた「レ

（裏面に続く）